

APP 環境新聞

発行日 2025年6月30日

発行者 エイピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)
ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APP は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



取引先様合同ツアー・スマトラゾウ保護センターにて

森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 取引先様合同ツアーを初開催!

エイピー・ジャパン株式会社 (以下、APPジャパン) とユニバーサル・ペーパー株式会社 (以下、UP) は、売上の一部を寄付してインドネシアの荒廃した自然林を再生する『森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~』(以下、森P) を行っています。

2025年6月、APPジャパンとUPは合同で9社の取引先様を森Pの現場までお連れしました。これは、APPの持続可能な森林管理、植林から製品までの一貫生産、製品売上の一部を荒廃林再生に還元する森Pの、一連の取り組みを視察するツアーとして企画され、東北から九州に至る全国の取引先様にご参加いただきました。

5日間に渡るツアーでは、移動日の翌2日目にスマトラ島リアウ州のインダ・キアット・ペラワン工場、森林火災モニター室、産業植林の育苗施設を訪問しました。3日目は午前中にAPPの広大な植林地と、森林火災の原因とされる地域住民の焼き畑抑制を目的とした農業支援 (DMPA) プログラム先の養蜂園を訪れ、アカシア植林からできた蜂蜜を巣箱から取り出したままの状態を試食しました。午後には森Pの現場で記念植樹を行い、保護されたスマトラゾウとも触れ合いました。4日目にはAPP本社を訪問し、翌5日目に帰国しました。

参加された取引先様からは、「植林から紙になる工程を詳しく見られた」「火の見櫓から見渡す植林地は一見の価値があった」「ゾウと触れ合う貴重な体験ができた」「養蜂の様子を初めて見るのができ、蜂蜜も試食できて楽しかった」「森Pの現場では先に触れ合ったゾウの瞳を思い出して泣きそうになった」「来るまでは億劫だったが、森林保護から紙の生産、農民支援、荒廃林再生などの取り組みが繋がっていることがよく分かって有意義だった」など、私たちににとって励みになる感想をお寄せいただきました。

森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<1>

現在、森Pの活動現場で、リアウ州が管理しているスルタン・シャリム・ハシム大森林公園 (以下、SSH) では、地域住民による違法なパーム植林とそのための焼き畑が後をたたく、管理事務所の予算不足、人手不足も相まって森林荒廃を止められない状況にあります。

最近、インドネシア政府によって違法なパーム植林を厳しく取り締まる方針が打ち出されましたが、その効果は不透明な状況です。森Pを通じて植えた苗も一部が焼かれてしまい、今年は新たな区画への植樹よりも焼かれた地域での植え直しに注力することになりました。

今後に向けて、周辺の地域住民が協力的で、日本のステークホルダーをお連れしやすい立地を兼ね備えた、SSHに代わる森P活動場所の調査を並行して行なっています。

森P進捗状況



植樹面積: 94ヘクタール
植樹本数: 56,896本

国連グローバル・コンパクト と国連 WFP 協会に加盟

2025年6月、APPジャパンは一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) とWFP世界食糧計画を支援する認定NPO法人国連WFP協会に加盟いたしました。

両組織への加盟を通じて、インドネシアだけでなく日本においても、他の加盟企業様と共にSDGs達成に向けて取り組みを展開できるよう努めてまいります。



We support
Japan Association for WFP

私たちは認定NPO法人 国連WFP協会の評議員です。

ここにも森Pロゴ パッケージの裏にロゴが掲載されています。



左(3点とも):
株式会社
坂本製菓様

右:
笠井食品
株式会社様
「加賀棒茶
わらび餅」



改正クリーンウッド法施行

2025年4月、改正クリーンウッド法が施行され、紙製品は、その原料情報と合法性確認証明を販売先に伝達することが義務付けられました。

APPジャパンとUPも順次対応してまいります。

日本ESD学会誌『ESD研究』第7号にプロジェクト実践報告を掲載！

ESD (Education for Sustainable Development)=持続可能な開発のための教育



筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)の建元喜寿教諭、同吉田賢一教諭、一般社団法人日本エシカル推進協議会(以下、JEI)の薄羽美江理事と共に、当社山崎の共同執筆報告による『グローバル企業の社会教育プロジェクトと連携した高等学校におけるESDプログラムの実践』が、このたび日本ESD学会誌『ESD研究』第7号(2024年)P.79-84に掲載、発刊されました。

筑坂高校とAPPIは、2015年よりインドネシア現地の工場・植林地視察など社会教育プログラムを共同実施しています。2019年より、筑坂高校においてJEI SDGsサーベイが定期的に行われていることを契機にエシカル教育連携へと発展し、2022年からエコプロでの発表やエシカル消費に関わるビデオ制作、プロモーションなど生徒の皆様による活動が展開され、こうした取り組み内容が今回の報告で紹介されました。

本年度夏のインドネシア・フィールドワークも例年以上に参加人数が増え、ESDへの協働が広がっています。



スマトラ島の植林地を歩く高校生

2023年8月1日～8月10日
渡航期間 (1日～5日スマトラ島森林研修)
(6日～10日ジャワ島学校交流)

参加者 高校生6名、大学生8名
引率：高校教員2名、大学教員1名
筑坂卒業生2名

・森林火災コントロールセンター見学
・製紙工場見学
・アカシア、ユーカリ植林地見学
・自然保護区見学
・苗圃および育苗実証場見学
・地域農業支援圃場見学
・現地農民への聞き取り調査
・荒廃地への在来種植樹

本報告ページより引用：
筑坂高校 建元教諭 撮影・作成



森Pの感謝状を贈呈しました

APPジャパン/UPでは、森Pに貢献いただいているお客様に感謝状の贈呈を行っています。2025年上半期も、多くのお客様に感謝状を受け取っていただきました。



アスト制/アズフィット制/制カルタス
取締役会長 村尾様(右)



小林紙商事制
専務取締役 小林様(左)



水野産業制
代表取締役社長 水野様(右)

中高生の企業訪問を受け入れています

APPジャパン/UPでは中学生・高校生の企業訪問プログラムを実施しています。今年の5～6月は15校の中学校・高校から100名以上の生徒の皆様が東京本社を訪問いただきました。



中学校・高校による当社訪問の様子



ホームセンターに森P販促POP設置



商品棚の様子

UPの家庭紙ブランドHelloのデザインリニューアルに伴い、ホームセンター・カンセキ様において新デザイン製品と森Pの店頭POPを売り場に展開していただきました。お近くの店舗にぜひお立ち寄りください。



店頭POP

APPはこう考える～環境への適応～

今月、インドネシアでAPPが支援する養蜂園を見学しましたが、環境の変化を捉えた賢い取り組みだと思いました。

あたり一帯は泥炭地と呼ばれる湿地帯です。農業に適さない土地として昔から開発されることは稀でした。ところが、その地域の開発権を授与されたAPPが、泥炭地で植林地を運営するために選んだ樹種が養蜂に適したアカシアなのです。

それまで農業に不向きな泥炭地域で少ない所得に甘んじていた農民にとって、養蜂業は収入が大幅に増える職業であり、周囲の植林地に植えられたアカシアを上手く活用した事例なのです。

とはいえ、環境の専門家からは、スマトラ島の自生種ではないアカシアを大量に植林するモノカルチャーが、周囲の生物多様性に悪影響を与えかねないという懸念も示されています。

APPは、そのために製紙原料に適した自生種の研究をしています。まだ時間がかかりますが、成功すればさらに持続可能な森林管理が実現できる一方で、地域住民の生計を支えつつあるアカシア養蜂業は成り立たなくなり、別の生計手段を見出す必要が出てきます。

このように、持続可能性に向けて変わる環境への不断の適応努力が必要だと感じさせられた視察でした。



養蜂園訪問の様子

NEW EDUCATION EXPO ミニセミナー開催

2025年6月7日、株式会社内田洋行様運営の教育関係者向け講演および展示会「NEW EDUCATION EXPO 2025」が東京ファッションタウンビルで開催され、APPジャパンは文具カタログ『UCHIDAS』部門の企画によるミニセミナー「ゾウが住むインドネシアの森を守りながら作られるコピー用紙の話」を開催しました。



ミニセミナーの様子

当日は満席となり、参加した先生からは学校の企業研究題材に検討したいといった声をいただきました。

森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう！～ 参加方法

1. プロジェクトの対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方
(sustainability@appj.co.jp までお問い合わせください)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます
<http://www.app-j.com/topics/1673.html>